

R7 前期日程 英語 出題意図と採点基準

I

- (1) 冒頭の図に関して述べられている事実を踏まえ、文脈に沿って和訳することが求められている。第1文は、“Knowing”が主語、“means”が動詞なので、「～と知ることは…を意味する」となるが、「～と知れば…とわかる」のように意識しても可。2文目の“how...work?”は、ほとんどの解答者が正答していたが、“can be”が能力ではなく可能性を表すことに留意したい。また、“Instead”を、「好奇心を持つかわりに」のように誤答した者が多かった。
- (2) 若者のソーシャルメディアの利用と心の健康の関係について書かれた文を訳させる問題である。昨今よく議論されている社会問題であったからか、全体的によくできていた。得点を分けたのは、“face double the risk of~”の“double”であり、「二重の」とする誤りが多く見られた。語順通りに二倍になるのが危険性であると解釈すれば正しく解答できたはずの問題である。その他、adolescents, anxiety, depressionなどの言葉の意味を知らなかったと思われる解答も見られた。

II

日本語の文章の意味を適切に把握しているか、標準的な英語の文法を用いて訳されているか、適切な語彙を用いた自然な英語になっているか、英文の句読法やスペリングが正しいかが主たるポイントである。解答の際には、文章全体で書かれていることは何かを理解し、下線部が全体とどのような関係にあるかを考えた上で、英語で表現するとよい。

下線部は、単に日本語をそのまま英語の単語に置き換えるのではなく、自然な英語に訳出されているかどうかポイントである。「その気にさえなれば」「・・・も関係なく」のような表現を始めとして、多くの解答に英語表現の苦心・工夫の跡がみられた。一方で、基本的な語彙でのスペリングのミス、表現の繰り返し、主節と従属節の不一致、前置詞の不足といった文章構造上に問題があるもの、また品詞の混乱や、形容詞や副詞とそれが修飾する語句との位置関係が不適切なものなどが散見された。標準的な語法と文章構造を意識して表現することが望ましい。

III

- (1) この段落の内容が正しく理解できているかを問う問題である。「目的」は、直前の文、特に“encouraging my students to make eye contact”に即して述べるのが最適である。「内容」は、直後の“I put the kids in groups of two”をふまえて、段落の最後の一文、特に“I have them practice talking to each other”を中心にまとめることが求められる。本文

を正確に解釈したうえで、「目的」と「内容」が過不足なく述べられていることがポイントとなる。“groups of two”と“taking note of”が正しく把握できていない答案が多かった。

- (2) 本文の文脈を理解し、下線部の文の構造を把握したうえで、適切に和訳することが求められる。特にそれぞれの節の主語が何か、それぞれの指示詞の内容を適切に理解しているか、(例えば、if they do は誰が何をするのか)などが主なポイントである。また、時制の間違いが散見された。
- (3) 下線部(3)の代名詞 this の具体的内容を文脈から読み取り、その文脈に即して自然な日本語で表現することが求められる問題である。この下線部が含まれる to 不定詞は「get 目的語 to ~」の to 不定詞であることが参考になったと思われるが、誰の視点から述べるかについて混乱が見られた。また、look 人 in the eye を「人を目で見るとする誤答も散見された。
- (4) 本文の内容を理解し、下線部の文の構造を把握したうえで、適切に和訳することが必要である。“No matter how ~”や“regardless of ~”の用法、関係節、受動態、副詞、比較などの文法事項の理解が求められる。この文脈で“appreciate”がどのような意味を表しているのか、if 節が何を修飾しているのか、“they”は何を表しているのか、という点で理解が不十分な答案が少なくなかった。